

第6学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『新しい時代の幕あけ』

(教科書：『小学社会 6 上』 p. 88～104／学習指導要領：内容（1）キ、ク）

2. 小単元の目標

幕末から明治時代の初めにかけてのうち、黒船の来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れたことに関心をもち、それを意欲的に調べ、我が国の近代化について考えようとしている。	廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことなどを、世の中の出来事や人物の働き、人々の暮らしなどを通して考え、表現している。	地図や年表、その他の資料を活用して、我が国の近代化の様子について、読み取ったりまとめたりしている。	廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

6年生から始まった歴史学習に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。自主学习で興味のある歴史的事象や人物について調べ、まとめてくる児童も増えてきている。しかし、興味はもっているが、ゲームやアニメのようなどこか別の世界の物語として捉えている児童や、中央政権での出来事として、地方である地元の新潟には関係ないことと捉えている児童が多い。つまり、自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていること、遠い祖先の生活が自分たちの生活と深くかかわっていることを理解できずにいる。このように、歴史的事象と自分たちの生活をつなげて考えることができていない。

(2) 教材について

本小単元では、幕末から明治時代初期について取り扱う。アメリカ合衆国のペリーが率いる黒船の来航をきっかけとして、約 260 年間続いた江戸幕府が倒れ、我が国は近代国家へと歩み始める。その近代国家への歩みは、これまでの我が国の歴史には見られなかった急激な変化であり、西洋諸国の文化を取り入れて人々の生活が飛躍的に向上する面と、地租改正や徴兵制などの政策によって人々の生活が圧迫されるという両面があった。このような社会の急激な変化と日本を取り巻く厳し

い世界情勢の中で、当時の人々が何を思い、考え、行動していったかということに迫らせることは、現在の我が国の社会の仕組みや生活様式の成り立ちを知る上でも重要であるとともに、さらなる変化が予想される未来に生きる児童に大変意義深いことであると考え。

しかし、明治時代は、多くの人物や様々な出来事が複雑に絡み合い、政治・経済の状況・社会の変化が急速な展開を見せるので、児童には理解が困難になる場面が多く見られる単元でもある。よって、これまで歴史に興味をもっていた児童でも、学習意欲が減退してしまう場合が想定される。

また、1858年に日米修好通商条約をはじめとして諸外国と結んだ、安政の五カ国条約により、日本海側唯一の開港場となった新潟にとって、本小単元で具体的に学習する「黒船の来航」「明治維新」「文明開化」は密接なかかわりをもつ出来事である。児童が、自分たちの生活が長い歴史や先人たちの働きの上に成り立っていると実感し、考えるのにふさわしい内容であると考え。

(3) 指導上の工夫・留意点

- ① 地域素材を取り入れ、児童に自分たちの生活が歴史や先人たちの働きの上に成り立っていると実感させる。

本小単元では、上述の児童の実態や、単元内容と新潟との関係性から、地域素材を取り入れ、新潟においても幕末から明治にかけて大きな変革が行われたことを実感させていきたい。

「黒船の来航」においては、ペリーの浦賀来航の絵図ではなく、「新潟湊之真景」を導入で取り扱う。ペリーの来航については、児童は漠然と知っているが、新潟港に外国船が来たことについては知らない児童が多い。単元の導入にこの資料を位置づけることによって、新潟も大きな歴史の流れの中にあること、自分たちの生活圏で同様の出来事があったことを実感し、これから学習する諸改革も同様に新潟で行われていたのだろうかという意識をもたせたい。また、幕府の衰退についても、安政の五カ国条約における新潟港の選定を取り上げる。これにより、「新潟湊之真景」を導入だけでなく、数時間にわたりじっくりと取り扱っていく。「文明開化」においては、ガス灯の存在やイタリア軒、国立銀行落成など、開港後の新潟の様子を取り扱う。また、「大日本帝国憲法の発布」においても、関連する自由民権運動家として山際七司を取り上げ、新潟においても自由民権運動が行われていたことを学習する。このように、単元を通して、新潟の歴史を位置づけることで、自分たちの生活は、我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていることを児童に実感させたい。また、自分たちの生活する新潟の資料を用いることで、より興味・関心を引き出すことができると考える。

- ② 児童の既有的知識や想定とズレを生む資料を提示する。

児童に問いを生ませるための手立てである。児童がこれまで学習した時代についての知識や、想定とズレを生む資料を提示し、比較させる。そのことで生じる「なぜ〇〇なの?」「〇〇なのに、なぜ△△なのだろう?」などの問いをかかわらせて、学習課題を設定していく。その際、資料からどんなことを読み取り、既有的知識や想定とどのように異なっているのか、そのズレを明確にしていく。特に、ズレを生んでいるのが資料のどの部分か、絵図資料であれば丸印、文書資料であればラインをつけさせる。板書でも同様に、発言をもとに印をつけることで焦点化させる。このような工夫が、個々の問いを学級全体で共有化していくことの一助となると考える。本小単元では「新潟湊之真景」や「オランダ領事の報告書」など、ズレを生じさせる地域資料を複数扱う。それらを丁寧に用いていくようにする。

③ 調べる内容を焦点化する。

課題に対して調べた事実を根拠に、自分の考えを書くためには、まず事実を調べるのが大切である。しかし上述のように、多くの人物や様々な出来事が複雑に絡み合う本小単元の学習では、調べ活動で時間を要してしまう児童が多く見られる。その原因として、課題を解決するために何を調べたらよいかわからなかったり、とりあえず教科書と資料集の関連のページやその前後について、すべてに目を通したりということが挙げられる。これらは、調べる内容が焦点化されていないために生じると考える。そこで、課題設定後、課題について予想することを通して、調べる内容を明確にして、見通しをもたせたい。「鎖国をしているのに、なぜ新潟港に外国船がいるのだろうか」という問いでは、「鎖国が終わったのではないか」「ペリーが関係しているのではないか」「新潟は外国船が来てもよくなったのではないか」などの予想から、「鎖国」「ペリー」「新潟」といったキーワードを選定し、それをもとに見通しをもって調べさせたい。まず、キーワードとなる言葉を探し、そこから具体的に調べ始めるよう働きかける。

5. 小単元の指導計画（総時数 11 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① （つかむ） 【本時】	我が国が開国し、諸条約によって、新潟が開港したことがわかる。	○「新潟湊之真景」から、幕末の新潟港に外国船が来航していることを読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">江戸時代は鎖国しているのに、なぜ新潟港に外国船がいるのだろうか。</div> ○ペリー来航や諸条約について調べる。 ・日米和親条約、日米修好通商条約	◎「新潟湊之真景」 ◇これまでの学習を想起させ、認識のズレを明確にさせる。 ◆我が国は諸外国に対し開国し、条約によって新潟港が開港したことがわかる。 (知・理／発言・ノート記述)
② （調べる）	日米修好通商条約の日本海側の開港地選定理由を調べることを通して、幕府の支配体制が弱体化していることがわかる。	○「オランダ領事の報告書」から、新潟港を拒否した理由を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">諸外国は新潟港を拒否しているのに、なぜ新潟港を開港したのだろうか。</div> ○「外国奉行菊池隆吉の復命書」から、幕府が新潟港を推薦した理由を読み取る。	◎「オランダ領事の報告書」 ◎「外国奉行菊池隆吉の復命書」 ◇新潟港と七尾港、それらを取り巻く状況を整理し比較させる。 ◆幕府が加賀藩から七尾港開港を断られ、天領である新潟しか開港できないほど、幕府の力が弱体化していたことがわかる。 (知・理／ノート記述)

③ (調べる)	開港後の新潟の様子を調べることを通して、文明開化によって人々の生活が変化したこと気づく。	○明治時代と江戸時代を比較する。 開港したことにより、新潟の様子はどのように変わったのだろう。 ○開港後の新潟の様子を調べる。 ○市章の意味について考える。 ・文明開化	◎幕末期・明治期の新潟の写真 ◎新潟市の市章 ◆文明開化によって、短期間のうちに人々の生活が西洋化したことに気づく。 (知・理/発言・ノート記述)
④ (調べる)	開国による影響を調べることを通して、国内外からの力により、大政奉還が行われ、武士の時代が終焉を迎えたことがわかる。	なぜ、江戸幕府は討幕されたのだろう。 ○開国による人々の変化を調べる。 ○新しい政治を旨とする人物や人々の動きを調べ、倒幕までの過程を整理する。	◎百姓一揆と打ちこわし(グラフ) ◎幕末の米の値段の移り変わり(グラフ) ◆幕府が倒れた要因について、生活の変化と新たな動きをもとに考えることができる。 (思・判・表/ノート記述)
⑤ (調べる)	明治政府の諸改革を調べることを通して、明治政府がどのような国づくりを目指したか考えることができる。	明治政府はどのような国づくりを目指していたのだろう。 ○岩倉使節団の目的について考える。 ○五箇条の御誓文の意味について考える。 ・明治維新、廃藩置県、四民平等	◎岩倉使節団の写真 ◎五箇条の御誓文 ◆明治政府の方針や岩倉使節団の目的から、目指す国づくりについて考えることができる。 (思・判・表/ノート記述)
⑥ (調べる)	明治政府の行った政治と社会の仕組みの改革・諸政策について調べ、まとめることができる。	明治政府は何のために改革を行ったのだろう。 ○明治政府の仕組みや諸政策について調べ、まとめる。 ・富国強兵・殖産興業・地租改正 ・不平等条約改正を目指す。	◎富岡製糸場の写真・絵図 ◆明治政府の行った新しい政治の仕組みや政策について調べ、まとめることができる。 (知・理/ノート記述)
⑦ (調べる)	明治政府の政策のもたらした影響について考えることができる。	なぜ士族は反乱を起こしたのだろう。 ○富国強兵・殖産興業・地租改正・四民平等などが、どのような変化をもたらしたか考える。 ・武士の不満が高まり、士族の反乱に発展した。	◎士族の反乱(地図) ◎西南戦争の絵図 ◆拙速な改革は必ずしもすべての人々に歓迎されたわけではなかったことを考えることができる。 (思・判・表/ノート記述)

⑧ (調べる)	自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治にもっていた願いについて考えることができる。	<p>人々は政府に、どのような政治を望んだのだろう。</p> <p>○自由民権運動のおこりから国会開設の約束までの経過を、板垣退助を中心に整理する。</p> <p>○山際七司を調べ、新潟にも自由民権運動がおこっていたことを知る。</p>	<p>◎自由民権運動の演説会の絵図</p> <p>◎自由民権運動の広がり（地図）</p> <p>◆明治政府が進めた改革から生れた矛盾や不満を解消するために、人々が国民の意見を取り入れた新しい政治を望んでいたことがわかる。 (知・理／ノート記述)</p>
⑨ (調べる)	大日本帝国憲法制定までの過程を調べ、明治政府が目ざした政治のあり方がどのような形で完成していったかについて捉えることができる。	<p>憲法が制定され、政治はどのように変わっていったのだろう。</p> <p>○明治政府の発布した大日本帝国憲法と私擬憲法を比較し、その違いから明治政府が目ざした国づくりについて考える。 ・大日本帝国憲法</p>	<p>◎大日本帝国憲法（一部）</p> <p>◎五日市憲法（一部）</p> <p>◎大日本帝国憲法発布式の絵図</p> <p>◆人々の願いとは別に、天皇に権力を集中させた近代国家を形成することにより、欧米諸国と対峙する体制を整えたことを考えることができる。 (思・判・表／ノート記述)</p>
⑩ ⑪ (まとめる・深める)	幕末から明治の歴史の流れの中に、新潟を位置づけることができる。	<p>幕末から明治になり、どのようなことが変わっていったのだろう。</p> <p>○これまでの学習をもとに、幕末期から明治時代の流れを整理する。</p> <p>○新潟での出来事を位置づける。</p>	<p>◇これまでの学習をもとに、身近な地域の事象を全体の歴史の中に位置づけていく。</p> <p>◆中央の歴史と自分たちの生活する新潟の歴史は密接にかかわっており、その延長線上に自分たちの生活があることに気づく。 (思・判・表／ノート記述)</p>

6. 本時の指導（第1時）

(1) 本時のねらい

江戸時代の新潟港に外国船が停泊している理由について、ペリーの来航や諸外国との条約を調べる活動を通して、我が国が開国し、諸条約によって、開港場の一つとして新潟が選ばれたことがわかる。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○課題を設定する。</p> <p>T：これまで、江戸幕府は外国に対して、どのような政策をとってきたでしょうか。</p> <p>C：鎖国をしてきた。</p>	<p>◇鎖国体制について確認する。特に、貿易港が限られていたことは必ず確認する。</p>

	<p>C：貿易も幕府がすべて握っていた。相手はオランダと中国だけで、場所も長崎・出島に限られていた。</p> <p>T：これは江戸時代の新潟港の様子です。どのような船が行き来していますか。</p> <p>C：同じような帆の船が多い。</p> <p>C：帆のある船以外にも、何種類かある。ボートのような船もある。</p> <p>C：3隻、大きい船があるよ。</p> <p>C：形も、帆を張っている船とだいぶ違う。</p> <p>C：他は茶色だけど、黒い船だ。</p> <p>C：奥にあるこちらに進んできている船は、煙も出している。</p> <p>C：他の船とは違う旗も立っている。国旗かな。</p> <p>C：どこの船だろう、外国の船かな。</p> <p>T：この3隻は外国の船です。オランダ・ロシア・イギリスの船です。</p> <p>C：え、なんで外国の船が新潟にいるの。鎖国しているから出島以外は、来たらいけないはず。</p> <p>C：ロシアやイギリスまで、なんでいるの。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】 江戸時代は鎖国しているのに、なぜ新潟港に外国船がいるのだろうか。</p> </div>	<p>◎資料「新潟湊之真景」を提示する。</p> <p>◇船の形状や大きさに着目させる。</p> <p>◇どのような違いがあるかを発言させる。</p> <p>◇外国船であることを伝える。</p> <p>◇外国船に印をつけさせる。</p> <p>◇外国船の存在に驚いた場合、なぜ驚いているのか理由を聞く。</p>
20	<p>○新潟港に外国船がいる理由について、班ごとに調べ、考える。</p> <p>C：鎖国をやめたのかな。</p> <p>C：ペリーが来たからかな。でも、新潟には来てなかったはずだけどな。どうして新潟に外国船がいるのかな。</p> <p>C：新潟で何かあったのかな。</p> <p>T：どんなことを調べると、解決できそうですか。</p> <p>C：鎖国がどうなったのか調べればよい。</p> <p>C：新潟港に何の関係しているのか調べればよい。</p> <p>T：鎖国についてと、新潟港についての二つについて調べればよさそうですね。調べるとき、「鎖国」や「新潟」が出ているところを探すのが大切になりそうですね。では、班で調べ始めましょう。調べたら、ワークシートに「①鎖国について」と「②新潟に外国船がいることについて」の二つに分けて、まとめて書きましょう。</p> <p>C：幕府は鎖国をしていたけど、1853年にペリーがアメリ</p>	<p>◇学習課題について簡単に予想させる。</p> <p>◇予想から、調べるためのキーワードを出す。「新潟」「ペリー」「鎖国」などを想定。</p> <p>◇「①鎖国について」と「②新潟に外国船がいることについて」の2点について調べることを明確にし、周知する。</p> <p>◇課題ごとにシートを分け、記述する。(2枚配付→課題ごとに掲示する。)</p> <p>◎教科書、資料集、ノート、掲示用ワークシート(各班)</p> <p>◇教科書・資料集の調べたことに印をつける。(赤色で線や囲み)</p>

	<p>カの軍艦を率いて浦賀にやってきたと教科書〇ページに書いてあるよ。</p> <p>C: 同じところに、幕府は開国を迫られて、武力をおそれ、1854年に日米和親条約を結んで、開国したとあるから、アメリカによって開国させられたんだね。そうか、鎖国をやめたということか。</p> <p>C: でも、下田と函館を開港したってあるよ。新潟は？</p> <p>C: 新潟という言葉は、資料集〇ページの「条約により開かれた港」というところにあったよ。</p> <p>C: 1858年に日米修好通商条約を結び、函館・新潟・横浜・神戸・長崎の五つの港を開港したと、資料集〇ページの「不平等な条約」というところに書いてあるね。</p> <p>C: 日米修好通商条約は後から結ばれたんだね。最初は下田と函館の2港だったけど、新たな条約で5港に増えたんだね。そこに新潟も加わったんだね。</p> <p>C: 日米修好通商条約について付け足して、治外法権や関税自主権がないという不平等な条約だったと、資料集に書いてあるね。でも外国船が来ていることには関係ないかな。どうだろう？</p> <p>C: ところで、来ているのはオランダとロシアだよ。</p> <p>C: アメリカだけでなく、イギリスやフランス、ロシア、オランダとも同じ条約を結んだと資料集にあるよ。</p> <p>C: じゃあ、新潟に外国船が来ているのは、ペリーが来て開国したからだね。</p> <p>C: その時に、開港五港に新潟が選ばれたから、新潟に外国船がいるんだね。</p> <p>C: じゃあ、まとめると「①鎖国について」は、1853年にペリーが来航して、開国を迫り、幕府は武力をおそれて、翌年に日米和親条約を結び、開国した。そこで、鎖国は終わった。ということだね。</p> <p>C: 「②新潟に外国船がいることについて」は、1858年に日米修好通商条約を結んで、開港五港に選ばれて開港したということだね。</p>	<p>◇調べたことを班のメンバーに伝え、同様に印をつける。</p> <p>◇調べたことをもとに、わかったことを班で話し合う。</p> <p>◇それぞれの班の話し合いの状況を見て、助言する。</p> <p>◇経緯について整理するよう声掛けする。</p> <p>◇「新潟湊之真景」にロシア・オランダ・イギリスの船が描かれていることから、アメリカだけでなく他国とも条約を結んだことをおさえる。</p> <p>◇不平等条約については、大まかな内容だけ確認する。</p>
15	<p>○各班の考えを検討し、学習をまとめる。</p> <p>T: 各班のわかったことで、共通していることは、何ですか。①について、共通点を挙げてください。</p> <p>C: ペリーが来航して開国したことは一緒です。</p> <p>C: 日米和親条約を結んで、下田と函館を開港した。</p>	<p>◎各班の掲示用ワークシートを①と②に分けて掲示する。</p> <p>◇2か所に分かれ、交代で掲示を見る。(掲示を見る時間は1分ずつ)</p>

